



小橋敏弘の ニッポン大好き! Hello Japan ヨーロッパ在住40余年、外から見ていた日本!

Vol.28 Dogを後ろから読むとGod

日本の読者の皆さんお久しぶりです。お元氣ですか。暑中お見舞い申し上げます。

こちらスイスは、5月に真夏並みの猛暑日が2週間ほど続き、日中は30度を超えヨーロッパ各地で記録的な最高気温が報じられていますが、6月に入り、その猛暑も一段落しやっとスイスらしい清々しい日々を取り戻しホッとしております。

さて、今日のお題は簡単です。私たちが日々耳にする英語の単語2文字についてご紹介させていただきます。かれこれ英語やドイツ語を40年以上も話している筆者ですが、DogとGodと言う単語が、実は前後ろから読むと同じと言う事にまったく気が付いていなかった筆者、少しだけ勉強しましたので紹介します。

言葉としての関係性。語源はまったく別物です。

God:ゲルマン系の古い語(古英語 god、さらに遡るとプロト・ゲルマン語など)に由来するとされます。

Dog:英語の中でも比較的新しい語で、その語源は「英語史の大きな謎」と言われるほどはつきりしていません。

↓つまり、「神」と「犬」を意図的に逆さにした、という歴史的な証拠はありません。こういう関係は、「逆から読むと別の単語になる言葉 (semordnlap)」の一例として説明されます。例: live ↓ evil, tips ↓ spit, star ↓ rats など。

それでも人が意味を知りたくなる理由。偶然とはいえ、「神」と「犬」という、どちらも人間にとって特別な存在が鏡写しのように並ぶと、どうしても意味を知りたくなりますよね。

犬=無条件の愛・忠誠・癒やし
神=絶対的な存在・信仰・救い
この重なりが、

「Dog is God spelled backwards (犬はGodを

逆から読んだものだ)」というフレーズを使っている。犬の愛情を、神さまみたいだ、と表現する人もいます。なので、言語学的・歴史的な「関連性」はほほほ(偶然)でも、人間の感性や象徴としては面白い、意味づけがたくさん生まれているというのが実態に近いです。あなたはこの偶然にどんな意味を感じますか?

□ 古代エジプトと犬の関係

古代エジプトでは犬はとても身近で大切な動物でした。狩猟犬や番犬として飼われ、時には家族同然に扱われていました。犬をミイラにして埋葬する例もあります。つまり、「王族が犬を飼っていた可能性は十分にある」のです。

□ なぜクレオパトラと犬のイメージが生まれるのか。

近代以降の絵画や映画で、クレオパトラのそばに犬や猫が描かれることが多い。
↓これは芸術家の創作で、エジプトの雰囲気を出すための演出です。

特にエジプトではジャッカル(アヌビス神)のイメージが強いため、犬が象徴的に使われることがあります。

□ ネットとパトラッシュの絆の本質

1. 無条件の愛

パトラッシュは、ネロが自分を救ってくれた瞬間から、「理由のいらぬ愛」をネロに向けて続けます。見返りを求めない。立場や身分に左右されない。ただそばにいたいことを選ぶ。犬が持つ純粋さが、そのまま形になったような関係です。

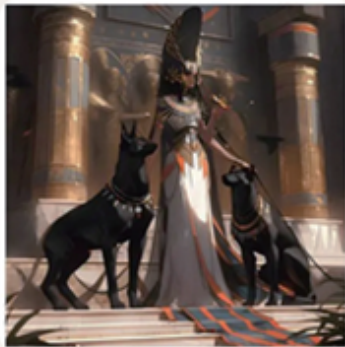
2. 苦しみを共有する相棒

ネロは貧しく、社会から冷たく扱われることも多い。そんな中で、パトラッシュは唯一の味方であり、「孤独を埋める存在」として描かれます。重い荷車を引く仕事を共にこなす。寒さや空腹と一緒に耐える。夢を語るネロのそばに静かに寄り添う。

言葉はなくても、互いの心が通じ合っているのがわかります。

□ なぜこの物語が人々の心をつつのか

愛が「言葉」ではなく、「行動」で示される社会の冷たさと、犬の温かさの対比が鮮烈。どんなに貧しくても、愛は存在し得るといふ希望。ネロとパトラッシュの関係は、「愛とは何か」を静かに問いかけてくる物語です。



画像はイメージです。

